

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 4 区分

【発行日】平成 25 年 10 月 31 日 (2013.10.31)

【公開番号】特開 2012-120286 (P2012-120286A)

【公開日】平成 24 年 6 月 21 日 (2012.6.21)

【年通号数】公開・登録公報 2012-024

【出願番号】特願 2010-266373 (P2010-266373)

【国際特許分類】

H 0 2 B 11/24 (2006.01)

H 0 2 B 1/14 (2006.01)

【F I】

H 0 2 B 11/04 H

H 0 2 B 1/14 A

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 9 月 13 日 (2013.9.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 4】

請求項 1 ～ 請求項 3 のいずれか 1 項に記載の配電盤のシャッタ装置において、前記ガイド溝は、前方側から後方側に向かう途中までが水平で、前記途中から下方に円弧状に曲げられて形成されており、前記開閉器が前記引出位置と前記接続位置との間を移動するとき、前記開閉器の前記上部及び下部端子の先端部が前記シャッタ板の開閉面の位置近傍から前記接続位置までの移動区間では、前記シャッタ板が開放状態を保ってほぼ静止するように構成されていることを特徴とする配電盤のシャッタ装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 7】

保守点検等で開閉器 2 が主回路断路部 5 から切り離されて固定枠 1 の前面側に引き出され、図 5 のような引出位置にあるときは、シャッタ板 6 はシャッタ保持フレーム 7 と共に下降し、主回路断路部 5 の絶縁筒 5 a の前面を塞ぎ通電部である中心導体 5 b が露出しないように閉鎖されている。レバー 1 3 の下部側はガイド溝 1 1 の前方端にスライドして図のような位置にある。

図 5 のような状態から、開閉器 2 を接続状態にするときは、開閉器 2 を車輪ガイド 9 に沿って後方へ押し込む。これにより、まず、開閉器 2 の後部が移動ピン 1 2 と一体に形成された当接部 1 2 a に当接して係合し、接続動作に入る開閉器 2 の位置が検出される。この状態で更に後方（奥）へ押し込むと、開閉器 2 の後部で当接部 1 2 a が押されることで、レバー 1 3 の下部側がガイド溝 1 1 に沿って後方に移動する。レバー 1 3 の上部側がシャッタ保持フレーム 7 にピン 1 4 で回動自在に連結されているので、それに連動してシャッタ保持フレーム 7 と共にシャッタ板 6 が上昇する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 5 】

更に、ガイド溝は、前方側から後方側に向かう途中までが水平で、途中から下方に円弧状に曲げられて形成されており、開閉器が引出位置と接続位置との間を移動する過程で、開閉器の上部及び下部端子の先端部がシャッタ板の開閉面の位置から接続位置までの移動区間では、シャッタ板が開放状態を保ってほぼ静止するように構成されているので、シャッタ板の移動を少なくでき、固定枠の小型化を図ることができる。